

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年2月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの報告が、依然として続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心として多く発生しており、注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年2月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	5件	急性弛緩性麻痺	1件
E型肝炎	4件	急性脳炎	2件
A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	9件	梅毒	28件

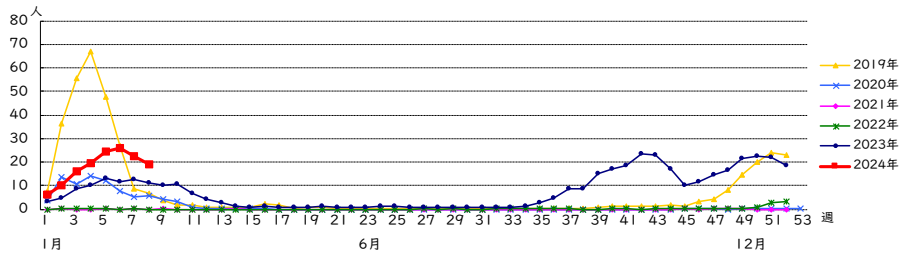
- 腸管出血性大腸菌感染症:**20歳代～50歳代で、血清群O157が2件、O20が1件、血清群不明が2件です。経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件です。
- E型肝炎:**30歳代～80歳代で、経口感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が1件です。
- A型肝炎:**80歳代(ワクチン接種歴無)で、経口感染と推定されています。
- レジオネラ症:**60歳代～80歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件です。
- アメーバ赤痢:**50歳代～60歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症:**10歳未満～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 急性弛緩性麻痺:**10歳代で、病原体不明、感染経路等不明です。
- 急性脳炎:**10歳未満～50歳代で、病原体はVZVが1件、不明が1件です。いずれも感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):**20歳代～80歳代で、性的接触(同性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:**70歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)、いずれも型別不明です。接触感染と推定される報告が1件、その他とされる報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:**10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回2件、無2件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 梅毒:**10歳代～50歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期14件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間19件、同性間4件、詳細不明4件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第4週	1月22日～1月28日
第5週	1月29日～2月 4日
第6週	2月 5日～2月11日
第7週	2月12日～2月18日
第8週	2月19日～2月25日

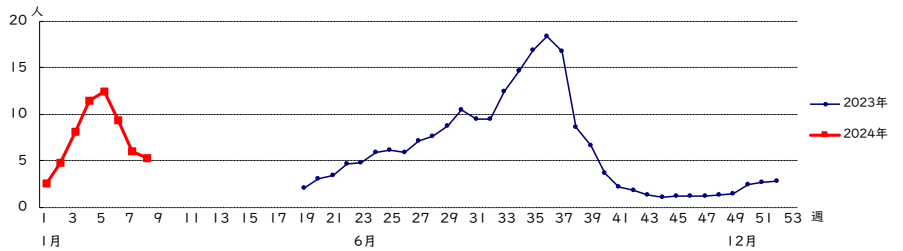
1 インフルエンザ

2023年第39週に流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。2024年第1週以降、増加傾向が継続しましたが、第8週は19.03です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報23号をご覧ください。



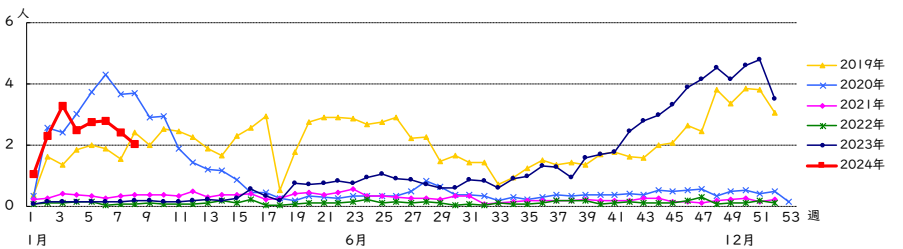
2 新型コロナウイルス感染症

2023年5月8日(第19週)より定点報告となりました。2024年第1週以降、増加傾向が継続しましたが、第6週以降減少傾向に転じ、第8週は5.30です。



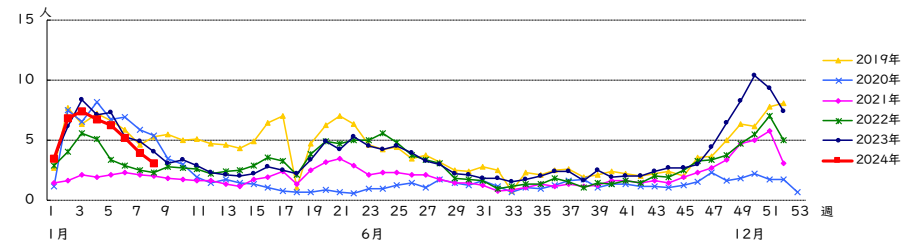
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第1週以降、増加傾向が継続しましたが、第4週以降減少傾向に転じ、第8週は2.03です。



4 感染性胃腸炎

2024年第4週以降、減少傾向に転じ、第8週は3.04です。



5 性感染症(2024年1月)

性器クラミジア感染症	男性:39件	女性:29件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:17件	女性:4件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:0件	淋菌感染症	男性:15件	女性:6件

6 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(2024年1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月期(2024年第4週～2024年第8週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点44件、内科定点9件、基幹定点2件、定点外医療機関2件でした。

3月4日現在、表に示した各種ウイルスの分離25株と遺伝子7件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第4週～2024年第8週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	アデノウイルス感染症
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	3 -			
インフルエンザウイルス AH3型	9 1			
インフルエンザウイルス B型 (ビクトリア系統)	8 4		1 -	
アデノウイルス	- 1			
アデノウイルス 3型		1 -		2 -
ヘルペスウイルス1型		1 -		
ライノウイルス			- 1	
合計	20 6	2 -	1 1	2 -

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月期(2024年第4週～第8週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌目細菌4件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、侵襲性肺炎球菌1件でした。非定点からの検査依頼はありませんでした。保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌4件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌12件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性インフルエンザ菌2件、侵襲性肺炎球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ属菌3件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は発熱・咽頭炎・咽頭痛1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024年第4週～第8週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関 基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	4	<i>Klebsiella aerogenes</i> (4)	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	4	<i>Staphylococcus aureus</i> (4)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 TUT (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> UT (1)	
保健所	腸管出血性大腸菌	4	O157:H7 VT2 (1)、O137:H41 VT2 (1)、OUT:H19 VT2 (1)、OUT:H10 VT2 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	12	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (9)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌 T1 (2)	
	侵襲性インフルエンザ菌	2	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (2)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 22 (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	3	<i>Legionella pneumophila</i> SG1(1)、培養陰性(2)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	発熱(38.6℃)、咽頭炎、咽頭痛	1	A群溶血性レンサ球菌 T1 陽性(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】